



全国めっき技術コンクール 第25回開催記念特集

本年度、全国めっき技術コンクールは25回目の節目を迎えました。昨年度、初めて参加件数が300件の大台に到達するなど、昨今全国規模でコンクールへの関心が高まっており、年度ごとに技能競争がハイレベルになっております。

そこで今月号ではコンクール開催に合わせ、コンクール第25回開催記念特集として、これまでに厚生労働大臣賞を受賞された皆様をはじめ、審査委員長その他関係者の皆様から、コンクールへの参加メリット等を中心に、コンクールに対する「思い」をそれぞれ語って頂きました。



1. 厚生労働大臣賞受賞企業に聞く

平成27年度

研磨-装飾クロムめっき部門 第1位

三和メッキ工業(株) 伊藤 壮一 様 (福井県表面処理工業組合)

[代表取締役社長 清水 栄次 様]

企業情報

- 福井県福井市
- 従業員 32名
- 大臣賞受賞：初

— この度は、受賞おめでとうございます。受賞の喜びの声をお聞かせください。とても素晴らしい賞を頂きました。光栄でございます。有り難うございました。まさか、弊社社員が受賞するとは思いませんでした。

— 出品にあたり何か工夫したことがありましたら、教えてください。工夫した点は、治具の作り方でございました。何度もトライし、今回の製品を作成することが出来ました。

— 大臣賞受賞後、受賞者の方含め、周りの社員へのモチベーション等に変化はありましたか。

(厚生労働大臣賞を含め、上位賞については) この度全部で5つの賞を頂き、社員一同、「今年も！」という声が集まってきております。社員のモチベーションは「田舎のめっき業者でも受賞出来るんだ！」という気持ちになっております。

— そのほかに、受賞後受注が増えたなどのメリットがありましたら、教えてください。

メリットですが、お客様からの信頼を得ることができ、受注に繋がりはじめております。

— 今後の企業としての抱負・意気込みについてお聞かせください。

今後は、毎年応募して社員の技術とモチベーションを上げていきたいと思っております。



三和メッキ工業(株)
代表取締役社長 清水 栄次 氏



三和メッキ工業(株) 伊藤 壮一 氏

平成27年度

装飾クロムめっき部門 第1位

(有)池田鍍金工業所 池田 敏志 様 (茨城県鍍金工業組合)

[代表取締役社長 池田 敏志 様]

企業情報

- 茨城県筑西市
- 従業員 25名
- 大臣賞受賞：初

— この度は、受賞おめでとうございます。受賞の喜びの声をお聞かせください。

日々積み重ねた仕事の経験がこの様な賞という形になり、大変嬉しく思います。受賞の話を頂いた時には、驚きや喜びと同時に夜遅くまで社員全員で試行錯誤を繰り返した光景を思い出し、胸が熱くなりました。

— 出品にあたり何か工夫したことなどがあれば、教えてください。

試作サンプルごとに細かな膜厚データ収集をし、予想と結果を今までの経験に基づき繰り返していくことで精度を向上させました。

— 大臣賞受賞後、受賞者の方含め、周りの社員へのモチベーション等に変化はありましたか。

コンクールに向けて試行錯誤する姿や、それが受賞につながる経緯を実際に社員に見せることができ、自分をはじめ社員全体の自信につながりました。

— そのほかに、受賞後受注が増えたなど、社外的なメリットがありましたら、教えてください。

商談室に地元の新聞に掲載して頂いた記事や賞状を飾ることで、お客様に自社の技術力をアピールすることが出来ました。

— 今後の企業としての抱負・意気込みについてお聞かせください。

今回の受賞は、私どもの最大の強みである社員全員の「創造力」の結晶と、捉えております。

今後は、私どもの「創造力」から生まれるオリジナルな技法やシステム、考えを生かした新しい価値を提供できるよう、精一杯尽力してまいります。



(有)池田鍍金工業所
代表取締役社長 池田 敏志 氏

平成26年度

研磨-装飾クロムめっき部門 第1位

旭産業(株) 永峯・神永チーム 様 (神奈川県メッキ工業組合)

装飾クロムめっき部門 第1位

旭産業(株) 立岡 範之 様 (神奈川県メッキ工業組合)

[常務取締役 小杉 亮 様]

企業情報

- 神奈川県横浜市
- 従業員 29名
- 大臣賞受賞：4回目

— 御社は厚生労働大臣賞を4回も受賞されていますね

当初は参加しよう・程度でしたので、全鍍連会長賞、しかも銅賞どまりでした。あの当時は上位賞を狙おうという意識は薄かったと思います。しかしある時、社員に半分冗談で、銅賞ならば、その上の銀、いや金を目指そう、もし上位賞を受賞したらポケットマネーを出すから、ということがすべての始まりだったと思います。

その後、全鍍連会長賞金賞を受賞したら、次はさらに上位賞を目指そうというように、いくつかの段階を乗り越え、現在に至っています。最初の時と比較すると現在は、めっき技術や様々な仕事に対する取り組みや考え方など、社員の目と意識が別のもつと感ずるようになりました。

1. 厚生労働大臣賞受賞企業に聞く(つづき)

— 上位賞を挑戦する職場環境によって、社内ではどのような変化が見られたのですか？

当社は、自動機等により大量にめっき加工するような施設はありません。社員は担当者と補助数名により、めっき種別にそれぞれ槽を割り当て、すべて手作業かつ多品種小ロットによるめっき工場です。そのため、機械的、画一的な作業工程はありません。受注された品物に応じて、一つ一つの創意や治具等の工夫が不可欠で、時には勘やひらめきも重要な要素となります。満足できるめっきに仕上げるためには、考える力も要求されます。

コンクールにおいては、厚生労働大臣賞等の上位賞を受賞したことはお客様に満足してもらえるような環境にも相まっていたでしょう。上位賞を受賞した担当社員にとっては、自分自身が編み出した創意と工夫に対し、より一層の自信にもつながり、さらに、一級・二級技能士の資格挑戦の意欲も高まりました。ある二級技能士の社員が厚生労働大臣賞を受賞したのですが、私の目から、この数ヶ月間で一級のレベルまで技術が向上したという例もあります。

経営者側にとって、コンクールに挑戦する社内の雰囲気づくりは重要です。また、様々な積み重ねによって、社員にとっては、めっき技術の奥深さを知り、創意工夫と仕事への意欲が醸成されたのだと考えています。何よりも、下位賞であれば、自発的に何が悪かったのかを考えるようになり、私にも積極的に相談、質問するようになりました。作業場でも、お互いが技術共有や融通しあうようになり、大変活気がある職場になりました。コンクールを通じて、貴重な財産を得ることができました。

— 厚生労働大臣賞を受賞後、何らかのメリットはありましたか？

当社は、ホームページなどネットによる営業はしていませんし、あえてPRもしていませんので、お客様にはほとんど知られていないでしょう。しかし、営業担当の社員はコンクールに挑戦し、技術も理解し、上位賞が難しいことは一番知っています。そのため、厚生労働大臣賞を受賞したことは誇りになっているようで、自信を持って仕事に励んでいます。利益には直結しませんが、間接的にも相乗効果があらわれています。

— 最後に、コンクールに参加する方々にメッセージをお願いします

経営者としての自分はもちろんのこと、社員にとっても技術、技能のスケールが高まります。まずは挑戦、この一言です。



旭産業(株) 常務取締役 小杉 亮 氏



厚生労働大臣賞受賞時の様子
(第52回全国大会)

コンクールへの参加は、技能訓練のみならず、自社PRにもお役立て頂けます

コンクールの参加を通じて、従業員の技能訓練を行っている企業様が多く見られるほか、上位表彰を受けられることにより、従業員のモチベーションや会社PRに繋がるといった、様々な参加メリットが期待できます。



昨年度も日刊工業新聞をはじめ、様々なメディアにて
コンクール表彰者が取り上げられました

平成26年度

亜鉛めっき部門 第1位

(有)朝日鍍金工場 (東京都鍍金工業組合)

[代表取締役社長 遠藤 清孝 様]

企業情報

- 東京都江戸川区
- 従業員 51名
- 大臣賞受賞：初

一 出品にあたり何か工夫したことがあれば教えてください

実は、厚生労働大臣賞を受賞した平成26年度の作品はそれほど自信があったわけではありません。栗原会長も言っておられました、評価の採点は紙一重であり、本当に運が良かったと思っています。逆に、27年度はV2を目指し各チームとも相当気合を入れて臨みましたが、結果は1チームの金賞受賞にとどまりました。膜厚の評価ばかりを気にしすぎ、耐食性の点数が低かったことが原因でした。点数に開きが出るのは耐食性であり、その部分の得点を獲得できるよう今年度は取り組んでいきたいと思っています。とにかく、条件出しめっきを数多く行い、最適な液組成、電流、めっき時間、極間距離を見出すことが大事であると考えています。



(有)朝日鍍金工場
代表取締役社長 遠藤 清孝 氏

一 大臣賞受賞後、周りの社員のモチベーション等に変化はありましたか

当社は、亜鉛めっき専門工場ですべて自動機によるめっき加工であり、手付けのラインは1台もありません。治具掛け、治具外し、バレルへの投入作業などが中心で、めっきを付けるメカニズムをしっかりと理解している作業者は、実は多くありません。自分の手でつけるめっき付けは、めっき作業の原点であり、何よりも新鮮に感じているはずですが、10数年前に参加した時は、決してモチベーションは高くありませんでしたが、現在は、若い社員を中心にやる気満々で取り組んでいます。現場の仕事を終えて、夜遅くまで、めっき付けしている姿は頼もしくも映ります。上位入賞を果たせば、もちろん、社長として、最大級のご褒美を考えています。

一 受賞後、受注が増えたなど、社外的なメリットは感じられましたか

受賞後、名刺に厚生労働大臣賞受賞のロゴを入れました。名刺交換の際、「すごい技術力をお持ちですね。」などの言葉を頂戴することが多くなりました。初対面からめっきの話に入りやすく効果絶大です。また、ホームページにも厚生労働大臣賞受賞のロゴを目立つように入れています。企業からの引き合いは格段に増えましたし、これまでなかった国立の研究機関からの問い合わせもあり、まさに受賞は、めっき技術の高さを示す証として捉えられていると強く感じます。

一 今後の抱負、意気込みを是非お聞かせ下さい

当社にある10ラインが、それぞれチームをつくり、毎年4チームが参加しています。チーム間で競争意識もあるようで、他チームを意識しながらめっき付けに取り組んでいます。この2年間の取り組みで、高得点を得るためのコツというのが、少しずつわかってきたように感じています。膜厚の均一性やシミ出し部の耐食性をどうやって向上させられるかが高得点を得るためのポイントになるように思います。(耐食性を向上させるための秘策もありますが、ここでは控えさせていただきます)毎年、申し込み後の7月より始動していましたが、今年は申し込み前の5月より、取り組みたいと思っています。2度目の厚生労働大臣賞の受賞を目指します。

※平成27年度亜鉛めっき部門第1位の宇都宮タマル工業(株)様につきましては、巻頭言「理事長のよこがお」の中で「コンクール大臣賞受賞のメリット」をテーマに寄稿頂きました(本誌P6)。よって内容重複のため本特集内では割愛させて頂きました。

2. 主催者より一言 ～25回目のコンクール開催にあたり～



審査委員長 小坂 幸夫 氏（東京都立産業技術研究センター）

平成25年度から審査委員長を仰せつかっております。この間に参加件数は毎年増加し、平成27年度には300件を越えました。上位の技術レベルは拮抗して判定に長時間を費やすようになっていきます。これも組合員の皆様の技術向上への熱意と技術委員会を始めとする担当者の方々の努力の結果と思っています。今後もこのコンクールが発展し、めっき技術の向上と技術者育成に貢献していくことを期待しています。



山田 登三雄 副会長（技術担当）

「チャレンジ」

平成4年度からスタートした、全国めっき技術コンクールも今年で25回の節目を迎えます。平成25年度の公式ホームページへのコンクール専用サイトの開設と、平成26年度のプレミアムアワードの創設で、めっきコンクールへの関心が大きく変わりました。平成27年度荒井技術委員長のもと、技術委員会をはじめ多くの全鍍連組合員皆様の力強いご支援ご協力のお蔭で、初めて目標の300件を超える事が出来ました。今年もコンクールに積極的に参加していただき、人材育成・技術力の向上・技術の高さのPRに是非結びつけて下さい。さらなるめっきコンクール発展の為、再度の挑戦者・新たな挑戦者にエールを送ります。



荒井 亮治 技術委員長 「人材育成のツールとして多くの参加を！」

めっき設備がなくても、10数Lのコンテナでも応募可能。極間距離やめっき厚の分布等、めっきの基本が見え、人材育成や試作開発能力の向上にもなります。

技術委員会では、全国めっき技術コンクールをより充実活性化するために、新たな部門創設等検討をはじめており、より多くの参加をお願いいたします。

本年度新たに、全国中小企業団体中央会様より、後援を頂くことになりました

全鍍連では、コンクールの開催を盛り上げるべく、これまで①厚生労働省様、②東京都様、③中央職業能力開発協会^{かみ}会長様、④日刊工業新聞社様より後援・賞状下付を頂いて参りましたが、本年度より**全国中小企業団体中央会様**より、後援並びに会長賞下付を頂くことになりました。**参加者の皆様にとりまして、更に表彰のチャンスが大きくなります。**

従来の上位賞 [3部門共通]

賞順位	団体名	賞名
1	厚生労働省 様	大臣賞
2		局長賞
3	東京都 様	局長賞
4	中央職業能力開発協会 様	会長賞
5		会長賞
6	日刊工業新聞社 様	新聞社賞
7		新聞社賞



本年度からの上位賞（予定） [3部門共通]

賞順位	団体名	賞名
1	厚生労働省 様	大臣賞
2		局長賞
3	東京都 様	局長賞
4	中央職業能力開発協会 様	会長賞
5		会長賞
6	全国中小企業団体中央会 様	会長賞
7		会長賞
8	日刊工業新聞社 様	新聞社賞
9		新聞社賞